【ビジネス／チーム運営】

映画「忍たま乱太郎」 VFX ディレクター 小林真吾 様

私は VFX ディレクターとして映画やテレビ番組の映像制作を行っています。 VFX とは CG を使って現実には存在しない映像を作り出す技術です。建物が爆発したり、ヒーローが光に包まれて変身したり、といった映像は、役者さんの演技を撮影した映像をコンピューターで加工することで作成されています。

京都、名古屋、東京の三拠点間で効率的な映像制作を実現

映画『忍たま乱太郎 夏休み宿題大作戦！の段』７月６日（土）より公開中
（c)2013「忍たま乱太郎　夏休み宿題大作戦！の段」製作委員会

プロジェクトの概要

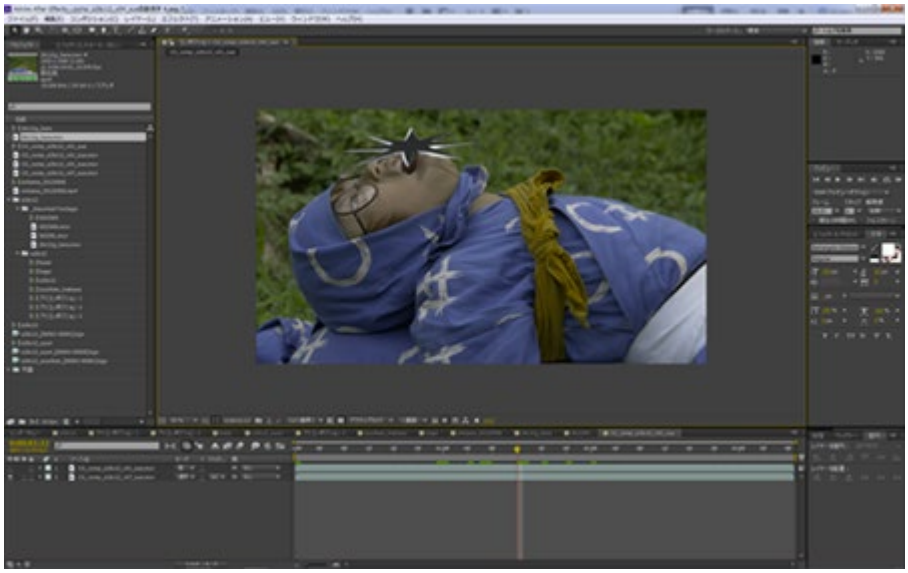
私は VFX ディレクターとして映画やテレビ番組の映像制作を行っています。 VFX とは CG を使って現実には存在しない映像を作り出す技術です。建物が爆発したり、ヒーローが光に包まれて変身したり、といった映像は、役者さんの演技

copyright © Cybozu

を撮影した映像をコンピューターで加工することで作成されています。

現在公開中の実写映画「忍たま乱太郎 夏休み宿題大作戦！の段」にも VFX ディレクターとして参加しています。「忍たま乱太郎」の VFX の映像制作プロジェクトでは、サイボウズ Live を使ってコラボレーションを進めました。

「忍たま乱太郎」以外にも「探偵は BAR にいる」「はやぶさ 遥かなる帰還」などの映画作品や、「特命戦隊ゴーバスターズ」「仮面ライダーオーズ/OOO」などのテレビ番組の VFX 制作でサイボウズ Live を使っていました。



CG を使って現実には存在しない映像を作り出す VFX

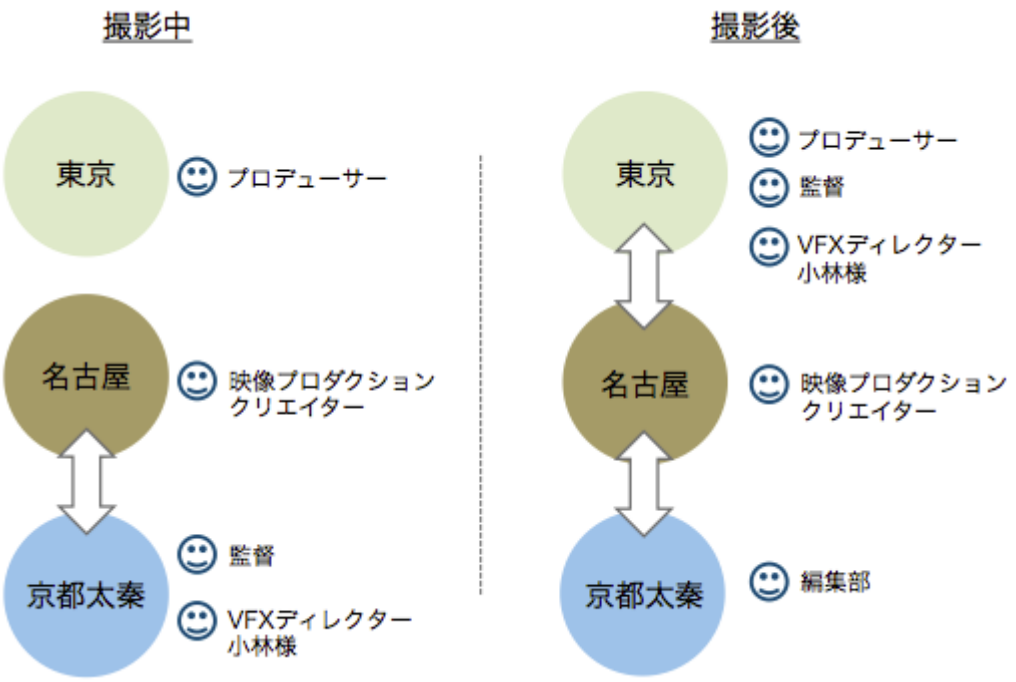
映画「忍たま乱太郎」の VFX 制作体制

映画「忍たま乱太郎」は京都太秦の撮影所で撮影され、VFX 制作は名古屋と東京のプロダクションで行われました。監督、プロデューサー、クリエイターなどの関係者の所在が京都、名古屋、東京の 3 箇所に分散しており、一堂に会して打合せや映像チェックができないため、オンラインで効率的に映像制作を進める必要がありました。

私は普段東京にいますが、「忍たま乱太郎」ではクランクイン前からクランクアップまで、監督と一緒に京都の撮影所にはりついていました。仕事の一例としては「忍たま乱太郎」では「マットペイント」によって実際には何も無いところにお城などの映像を合成しています。このような場合の撮影現場では今後 VFX（お城のマットペイント）が入った際にどのような完成型になるかを考慮しながらカメラマン、

copyright © Cybozu

監督と撮影する絵を決めるのが主な仕事です。 一方で VFX の制作は映画の撮影が全て終わった後に開始します。京都での撮影が終わった後、監督と私は東京に戻りますので、今度は東京から名古屋のプロダクションに指示を出して制作を進める必要がありました。



撮影中は京都-名古屋間で、撮影後は東京- 名古屋・京都間でコラボレーションしながら VFX 映像の制作を進める必要があった

こうした状況だったため、遠隔地にいるプロダクションのスタッフに対して、効率的に指示を出せる環境をつくりたいと考えました。 映画のカット数は膨大ですし、制作に関わる人の数も多いので、メールによるコミュニケーションではやりとりが破綻してしまいます。そこで、サイボウズ Live を使って監督やプロデューサー、プロダクションのメンバーとやりとりを行うことにしました。

VFX 映像制作チームでのサイボウズ Live の使い方

グループを分けて監督やクリエイターとやりとり

VFX ディレクターとしての私の役割は、監督とプロダクションのクリエイターとの仲介役です。 監督からの指示を技術的に噛みくだいてクリエイターに伝えます。クリエイターからあがってきた映像は、まず私がチェックして監督に確認するまでもない修正事項をクリエイターにフィードバックします。一通り基本的なチェックが終わった後、監督に映像の確認をお願いします。

copyright © Cybozu

仲介役として監督、クリエイターとスムーズにやりとりするため、サイボウズ Live では二つグループをつくりしました。一つは監督や編集部やプロデューサーとやりとりするグループ、もう一つはプロダクションのクリエイターとやりとりするグループです。

監督、プロデューサーとやりとりするグループ（左）と、 クリエイターとやりとりするグループ（右）の 2 つを作成。

サイボウズ Live はグループをいくつでも作成できます。プロジェクトごとにグループをわけることもできれば、今回の「忍たま乱太郎のケースのように、一つのプロジェクト内でグループを分けることもできるので情報の管理が楽です。ホーム画面で新着情報をグループ横断で全部みられるのもいいですね。

カットごとに掲示板のスレッド（トピック）を作成

VFX 映像の確認作業はカットごとに行うので、1 カットに対して掲示板のトピックを一つ作成しました。トピックのタイトルには、カットナンバーと日付、カットの概要を記載します。タイトルの付け方に一定のルールをつくっておくことで、トピックを一覧したときに簡単に目的のトピックを探しだせます。

copyright © Cybozu

カットごとにトピックを作成してやりとり

カットに対する指示やフィードバックはコメント欄に書き込みます。書き込みがあると新着通知メールが送信され、未読のコメントはハイライト表示されるので、見落としや重複回答がありません。コメントが時系列に並ぶので、過去の発言を振り返りやすいのですね。クリエイターからあがってきた映像をチェックする際に、自分がそのカットに対してどういう指示をしていたかを簡単に確認できます。

copyright © Cybozu

修正指示をコメントに記載

クリエイターへの修正指示は、シーンのキャプチャに修正指示を書き込んで画像として投稿します。投稿された画像はサムネイル表示され、クリックすると拡大表示されるので、クリエイター側も指示の内容を確認しやすいようです。

copyright © Cybozu

サムネイル画像をクリックすると拡大表示されるため、 画像をダウンロードせずに指示内容を確認できる。

カットごとの進捗は Excel でも別途管理しており、サイボウズ Live 上での確認結果を逐次反映しています。

YouTube のアクセス制限 URL を掲示板で共有

映像のモーションチェックやファイナルチェックは、YouTube を活用しました。 YouTube に非公開で動画をアップロードして、アクセス制限 URL をサイボウズ Live 上で共有します。 制作中の映像は当然非公開ですし秘密を守る必要があるので YouTube の利用には不安がありましたが、色々と検証した結果おおよそ問題ないことがわかりました。YouTube なら PC だけでなく iPhone や iPad でもスムーズに再生できます。これは今回の制作がスムーズに進んだポイントの一つだったと思います。 高解像度でチェックする必要がある場合は、クラウドストレージサービスでムービーデータを共有しました。

共有フォルダで企画書や仕様書を共有

作品の企画書やキャラクターのイメージ画像など、プロダクションの担当クリエイター全員に見てもらいたい資料は共有フォルダにアップします。 以前は自分で構築した FTP サーバーにファイルをアップしてメーリングリストでファイルパスを連絡する、といったやり方をしていましたが、それと比べると格段に楽ですね。

copyright © Cybozu

「いいね！」が励みに

コメントに「いいね！」がつけられますよね。最初の頃は「いいね！」をつける習慣がなかなか浸透しなかったんですが、最近は皆さん気軽に「いいね！」をつけてくれるようになりました。なんということはない機能ですけど、監督やプロデューサーがいいね！をつけてくれるとやはり嬉しいですよね。 IT やコミュニケーションツールに不慣れでコメントを書きにくいという人でも、「いいね！」ボタンは気軽に押してくれています。

使いやすさのポイント

必要な機能がすべて揃っている

掲示板機能でテーマごとに時系列でやりとりできる、ファイルを共有できる、スケジュールを共有できる、といったプロジェクトの情報共有に最低限必要な要件をサイボウズ Live はすべて満たしていますよね。画像だけでなく PDF や Excel も添付できる、Web サイトの URL を書き込んだらリンク表記になる、といったような「当然そうなっていて欲しい」という細かい機能がすべて付いている。

有料サービスも含めて他のツールをいくつか検討しましたが、サイボウズ Live は無料でありながら必要十分な機能を備えている。便利ですよね。今のところこれに勝るサービスはないかなと思っています。

シンプルだから迷わず使える

肌感覚で「とっつきやすい」とメンバーに感じてもらえるかどうかも重要ですね。 特に使い方を細かくレクチャーすることなく、監督もクリエイターも使いこなせています。グループの掲示板に予め用意されている初心者向けのトピックを読んでもらえば、皆さんそれなりに使い始められます。

機能が絞られている分だけ、迷わず使えるのかもしれませんね。サイボウズ Live は気軽に書き込めるインタフェースなのでメンバーからの書き込みやフィードバックが早く、情報共有が進みやすいですね。

クラウド、スマートフォン対応だから場所を選ばず仕事ができる

copyright © Cybozu

いつも iPhone アプリで新着情報をチェックしています。アプリのプッシュ通知で新着に気がついて、簡単な用件ならiPhoneだけで済ませます。大きい画面で確認したい時はiPadで開いて、詳細にコメントが必要なときはMacBookを開く。複数のデバイスを状況に応じて使い分けています。

クラウドサービスだからPCやスマートフォンで必要なときにアクセスできるので、時間や場所に制約されずいつでもチェックして返信できます。今時間が無くて細かくチェックできないというときは、とりあえずその旨だけ伝えます。そうすれば現場の人はいつみてくれるんだろう、という不安を感じないですみますから。

情報共有の「ハブ」に

ホーム画面にプロジェクトの情報が集約 とにかくサイボウズ Live だけみればいい、というのが私にとって一番の利点ですね。 DropBox などのファイル共有サービスも併用していますが、併用しているサービスの URL をグループのリンク集に登録しておくことで、サイボウズ Live にアクセスすれば必要な情報にすぐアクセスできる。映像制作プロジェクトにおいて、サイボウズ Live が情報共有の「ハブ」としての役割をはたしています。

2013/07/29

copyright © Cybozu